

第 79 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時：令和 4 年 9 月 16 日（金）16 時 30 分～18 時 00 分

会 場：オンライン開催（zoom、URL はお申し込みいただいた方に後日お知らせします）

テーマ：分野横断で挑む災害科学研究

16:30～16:35 司会・進行より Web 開催上の留意点の説明と趣旨説明

16:35～17:00

スペイン・インフルエンザ文理連携勉強会—災害研における学際研究活動事例

話題提供者：中鉢 奈津子・三木 康宏・川内 淳史・児玉 栄一・伊藤 潔

「スペイン・インフルエンザ文理連携勉強会」を、災害研の医学・歴史学の連携活動事例として紹介する。同勉強会は、三木が東北大学図書館の蔵書に大正時代の医学雑誌を発見し、中鉢を介して川内に歴史資料の研究方法を相談することで始まり、コロナ禍を受け、伊藤・児玉をアドバイザーに迎えて本格継続することとなった。これまで、感染症等に関する既往文献・大正時代の医学雑誌の読み込みと検討を重ね、得られた知見を随時発表してきた。本発表では、本勉強会でこれまでに得られた成果と課題を、各メンバーの視点を提示しつつ概括する。

17:00～17:25

歴史が導く災害科学の新展開—慶長奥州地震津波研究と疫病退散プロジェクト—

話題提供者：蝦名 裕一（災害文化アーカイブ研究分野）

2011 年の東日本大震災の発生直後より、災害研では 1611 年の慶長奥州地震津波の研究を開始し、歴史学・地質学・津波工学の研究者がフィールドを共有して研究を展開することで、従来の研究で過小評価された地震規模を、より大きな地震規模へと見直した。また、新型コロナウイルス流行をうけて、2020 年より歴史学と医学の連携による「疫病退散プロジェクト」を開始し、過去の疫病流行やそこで形成された疫病文化について事例の収集と分析に取り組んだ。本発表では、これらの文理融合型研究の成果と課題について報告する。

17:25～17:50

若手研究者がやってみた分野横断実践—門廻充侍の事例

話題提供者：門廻 充侍（津波工学研究分野・地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門)

発表者は、2018 年 1 月の着任後「災害からの生存科学」という新しいプロジェクトを始動し、現在取り組んでいる。その過程で、発表者は、異分野との協創を意識的に実践してきた。例えば、学内での連携事例として、①舟山真人先生（医学系研究科 法医学分野）、②江川新一先生・佐々木宏之先生（災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野）との研究が挙げられる。また、学外での事例として、POLA 化成工業株式会社との me-fullness® プロジェクトがある。本発表では、これまでの過程を異分野協創視点で振り返ることで、分野横断を促進するヒントを、聴講者と一緒に見つけ出すことを目指している。

17:50～18:00 質疑／総合討論（10 分）

18:00 閉会

司会・進行：岩田 司（空間デザイン戦略研究分野）